

青雲

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。

17号 2015.3

発行人 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

青雲

17号 2015

contents

- ◆巻頭言／「明るい建設業の未来！」
一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 ……………①②
部会長 梶野直宏
- ◆～次世代建設就業者育成事業～
次世代建設就業者育成事業の背景と目的 ……………③
次世代建設就業者育成事業の概要 ……………④
出雲農林高校生との現場見学(多伎) ……………⑤
出雲農林高校生との建設機械搭乗体験 ……………⑥
出雲農林高校生との現場見学(出雲工業高校) ……………⑦
出雲農林高校生との意見交換会 ……………⑧
現場見学会に参加して(出雲農林高校生) ……………⑨～⑪
新聞記事掲載 ……………⑫
アンケート結果 ……………⑬～⑯
- ◆平成26年度事業報告
＜地域貢献事業報告＞
2014道路清掃 ……………⑰
地域貢献委員会 委員
(有)間壁組 間壁和弘
＜親睦事業報告＞
研修視察に参加して……………⑱
会員交流委員会 委員
(株)板倉重機 持田 充
＜経営研究事業報告＞
2014意見交換会 ……………⑲
経営研究委員会 委員
出雲グリーン工業(株) 江戸健一郎
- ◆平成26年度卒業生より一言 ……………⑳
原 嘉昭
岩成工業(株) 大國博行
- ◆平成26年度新入会員紹介 ……………㉑
出雲グリーン工業(株) 江戸健一郎
大和建设(株) 杠 直門
ヒカワ工業(株) 菖蒲 修
- ◆編集後記 <総務広報委員長 佐藤精一> ……………㉒

明るい建設業の未来！

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 梅野直宏



昨年末の衆議院議員選挙は安倍政権に一定のお墨付きを与える結果で終わりました。明けた2015年、私たち建設業協会を取り巻く環境はどうなるのだろうか。しかしその前にまだまだ山積みとなっている問題は多々あります。その問題解決に向けた取り組みが必要ではないでしょうか？

さて近年、度重なる災害が発生し、日本各地で甚大な被害に見舞われています。地震や異常気象による大規模災害、大雪による除雪など、ますます安全・安心確保に向けた動きが加速しなくてはなりません。しかし、ダンピング受注などにより適正な利益確保が困難となり廃業、倒産に追い込まれているのが業界の実態であるように思います。また、若手技術者の不足が深刻な問題になっています。昨年6月に改正された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）では、災害発生時には、即座に対応できるのは地元の建設業であることを理念のもと、担い手育成の中長期的な育成・確保を前面に押し出しています。これは私たちにとっては追い風となる大変嬉しく思うところでもあります。さらに、地元企業育成を目的に、全国各地で指名競争入札を復活させる動きが相次いでいる（日経コンストラクション2014.12.22掲載記事より）。記事によれば、山口県では、指名エリアを細かく分けた「地域活力型指名競争入札」を導入し、また神奈川県では、「いのち貢献度指名競争入札」を導入しています。このような動きが全国各地に広がっていくことを切望します。そして、改正ではダンピング受注の防止が盛り込まれています。特に発注者の責務が明確化され、「歩切り」についても運用指針では明確に禁止すると記してあります。また、適正な利潤が確保出来るように予定価格の適正な設定をするように発注者に求められています。これら改正された内容が出来るだけ早期に運用されることを願います。

このように品確法改正が良い方向に向かう中、私たち建設業が何もしないわけにはいきません。人手不足などの問題は、建設業の魅力を上手く発信してこなかったのが問題だったと感じます。また数年前、公共工事減少にともない採用を控えてしまったことも響いています。昨年、国土交通省中国地方整備局を座長として「中国地区建設

産業魅力発信推進協議会」が設立されました。まずは中国5県での取り組みとして各県で情報の共有をしています。私たち青年部会も、積極的にこの取り組みに参画し魅力を発信していきたいと思えます。さらに、最近は土木系女子「ドボジョ」や建築・設備・機械系女子「けんせつ小町」のみなさまの現場での活躍が話題になっています。どうしても建設業のイメージとして、「きつい」、「汚い」、「危険」と言われます。このイメージの払拭のためにも、女性が現場で活躍できる職場づくりに尽力するとともに、今までになかった画期的な職場づくりが求められていると思えます。

最後になりますが、2015年、魅力発信は当然のこと、発注者のみなさまや他団体など連携し私たち建設業にとって、素晴らしい年になるように、青年部会として様々な活動を展開して参ります。

皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。



次世代建設就業者育成事業の背景と目的

今後、建設業が社会資本整備の担い手として存続していく為には、公共事業の安定的な確保は勿論ではありますが、建設業を支える人々が存在しなければなりません。そして、建設業界で働く人が生きいきと働ける環境を整備することが喫緊の課題であると考えています。

現在、建設業就業者数が減少しているとともに若年労働者の入職が少ないために就業者層が高齢化している現状と団塊世代を中心に大量のリタイヤにより近い将来、深刻な労働力不足になることが懸念されています。

若年層にとって建設業が就職先として人気がないこと、就職してもすぐに離職してしまい定着しないなどの問題があり、考えられる要因は、所得水準の低さ、休暇が少なく労働時間が長いなどの就労環境の悪さ等であると考えます。

建設業は、島根県のインフラの整備、維持管理の担い手であるとともに、県の経済や県民生活を支える基幹産業であり、災害から地域の安心・安全を守る重要な役割も果たしています。

このため、災害時の初動対応、道路の啓開などに不可欠な建設企業が、各地域にバランスよく存在していることが必要で、地域ごとのインフラの維持管理の担い手として、その地域に密着し実情に通じた建設企業が活躍していくことも必要であります。

また、建設業が生活や産業のインフラ基盤を構築し、快適な市民生活に大きく寄与していることは事実であり、広く認識されていますが十分とは言えないのが現状です。そして、近年頻繁に発生している自然災害についても、建設業界の防災・減災への貢献度は高く、防災関連の工事の施工に限らず、災害時の緊急対応や除雪等でも活躍しています。

建設業の最大の魅力ともいえる「ものづくり」については、完成品である建物や構築物の使用や、工事現場の横を通り過ぎることがあっても、それだけでは、ものづくりの魅力を伝えるには不十分だと考えています。生活に直結する身近な産業として認識してもらう為に、建設現場見学会（高校生対象）や建設機械の搭乗体験（小学生対象）といった事業を継続的に展開していくことが重要だと考えています。

一般に対して継続的なPRを行うことによって、建設業に対する負のイメージを払拭し、社会的に重要な業界であるとの正しい認識を広めることが必要であると思います。これらは、短期的に目に見える効果を上げることは難しいと思いますが、中長期的な効果が期待できると考えております。

さらに小・中学生や保護者・先生に対しての理解促進事業を今後展開していくことと女性への建設業就業推進のための環境整備も合わせて必要であると共に関心を抱いてもらうことが必要だと考えています。そして、国民レベルでの理解を進める為には、建設業界全体で取り組むことが必要不可欠であり、建設関連諸団体や行政官庁とも更に連携を強化し、継続的に実施していくことが重要です。

建設業で安心して働ける雇用体制を確立し、これまで培ってきた技術・技能を次世代に伝承し、建設業が社会に貢献する産業として発展するとともに、県民の皆様が安心して生活を提供し、信頼される建設業となれるように一層の努力が必要だと感じております。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学 校 名 島根県立出雲農林高等学校
- 開 催 日 平成26年10月29日(水)
- 現場見学参加者 環境科学科2年生 33名、教員 2名

8:30~8:50	出発 出雲建設会館 ⇒ 着 農林高校
9:00~10:20	オリエンテーション(車中) ・部会長挨拶 ・スケジュール紹介(委員長) 出発 農林高校(9:00) ⇒ 着 工事現場(9:20) 発注者:国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所 工事名:多伎朝山道路小田地区改良第5工事 受注者:株式会社 フクダ 担当者:松江国道事務所 宮田建設監督官様 :株式会社フクダ 畑原様
10:30~11:45	出発 工事現場(10:30)⇒着 (株)板倉重機江田ヤード(11:00) 建設機械搭乗体験 担当者:株式会社出雲技研 須山様 :株式会社板倉重機 細木様
11:50~12:00	出発 (株)板倉重機江田ヤード(11:50)⇒ 着 出雲建設会館(12:00)
12:00~12:55	昼食・休憩
13:00~14:20	出発 出雲建設会館(13:00)⇒ 着 工事現場(13:15) 発注者:島根県 出雲県土整備事務所 工事名:出雲工業高等学校整備事業敷地造成工事 受注者:今岡工業 株式会社 工事名:出雲工業高等学校(既設校舎解体他)整備(建築)工事 受注者:株式会社 トガノ建設 担当者:出雲県土整備事務所園山建築課長様 :今岡工業株式会社 石飛様 :株式会社トガノ建設 石川様
14:30~14:50	出発 工事現場 ⇒ 着 出雲建設会館
15:00~16:15	意見交換会 (出雲建設会館) ・部会長開会挨拶 ・出雲県土整備事務所 永井所長様のご講演 ・出雲県土整備事務所 加藤様のご講演 ・若手社員(登川様・門脇様)の話 ・意見交換 ・アンケート ・副部会長閉会挨拶
16:20~16:45	出発 出雲建設会館 ⇒ 着 農林高校

「多伎朝山道路」工事現場見学 小田地区改良第5工事



松江国道事務所 宮田建設監督官様より多伎朝山道路の概要と工事現場について説明を受けました。



締固めの工事を進められていました。



(株)フクダの畑原様より映像を交え説明をして頂き、高校生からの質疑応答にも答えて頂きました。

「建設機械」搭乗体験

搭乗機械 : バックホウ (0.8m³積み)
: アーティキュレートダンプ (平積み量16.9m³) ×2台



(株)出雲技研 須山様、(株)板倉重機 細木様、青年部会会員より重機の仕組みや役割などの説明を受け、デモンストレーションを見学しました。



順番に一人ずつ乗り込んで真剣にハンドルを握っていました。



ダンプの前で記念撮影をしました。

「出雲工業高等学校」工事現場見学



出雲県土整備事務所 園山建築課長様より工事全体の概要を説明して頂き、今岡工業(株) 石飛様、(株)トガノ建設 石川様より工事の内容について説明して頂きました。

「敷地造成工事」



現場において施工技術の説明をして頂きました。

「既設校舎解体工事」



解体工事が進められていました。

意見交換会



出雲県土整備事務所 永井所長様より「島根県の建設産業界の明日を支える」、
加藤様より「東日本大震災 被災地派遣報告」と題し、スライドを交え講演して頂きました。



若手社員の(株)中筋組 登川様、(株)フクダ 門脇様より入社してからの体験談をお話しして頂きました。



さまざまな質問が飛び交い、とても活発な意見交換会でした。

工事現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 奥原優希

今回、様々な所に行き、貴重な体験をさせていただきました。自分が特に印象に残っているのは、出雲工業高校の工事の見学と、意見交換会です。初めて間近で工事現場を見て作業工程や現場の空気など、いろいろなことがわかりました。それと工事が終わって完成した建物もとてもきれいでした。意見交換会では様々な方から貴重な話を聞くことができ、とても自分のためになる時間となりました。日頃、建設関係の方々がどのような仕事をしておられるのか、心がけていること、給料についてとか、とても参考になりました。気になることがたくさん質問できて、積極的に行動することができたと思います。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 嘉本有希

工事現場を見学できて、とてもいい経験ができました。私が驚いたのは山を掘削するときは、まず木を伐採し、重機を使って削っていくことです。そして、セメントを使った工法も知ることができました。

ダンプトラックにも乗ることができました。普段の学校生活では体験することができないので、この見学会での体験は本当に貴重でした。

工業高校の見学も昔と違って、とてもきれいになっていて、工事をしている人は大変だと思いました。現場の方も完成した時の達成感が良いと言っておられました。

意見交換会の時は若手社員の人のお話がとても心に残りました。今のうちから、挨拶、服装、勉強をしっかりしていこうと改めて思いました。この体験を今後に活かしていきたいです。



工事現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 栗原拓巳

現場見学で感じたことは、人のためになることをやっておられるという事を感じました。今、僕たちが何気なく使っている道路も多くの方のおかげでできています。また日々勉強に励んでいる学校の建物も同じように造られていることを改めて感じました。普通に考えて、このようにスケールの大きい「もの」を造るということは凄いことだし、この人たちにしかできないことなのだと思います。

今の僕ができることは、3年間の学校生活を頑張ることです。嫌なことでも、辛いことでも我慢してやっていこうと思います。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 小林拓実

工事現場を見学して、現場にたくさんの重機があることに驚きました。特に大きな重機には遠くからみても迫力がありました。建設機械搭乗体験ではバックホウやアーティキュレートダンプトラックに乗らせていただきました。とても大きい重機で、運転席から見て視線も高くまわりが見渡せ、重厚感もあり、とても格好よかったです。

将来のことはまだ考えがまとまっていませんが、この体験を今後に活かしていきたいです。



工事現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 玉木大輔

今回、現場見学会に参加できてとても良かったです。いろいろな会社の人がおられて緊張しましたが、どんな会社があるのか知ることができました。実際に重機に乗ることもでき、貴重な体験をすることができました。多くの現場に行き、同じ建設会社でも様々な仕事があるのだと思いました。

意見交換会では、若手社員の方々の話を聞いたりすることができ、とてもためになりました。自分で調べたりするよりも、実際に現場で働いている方の話を聞くほうがわかりやすいと思いました。どんな人材が欲しいのかなど、自分が就職するにあたって大切なことが聞けて良かったです。今、建設業は若手が不足していると聞き、自分の進路希望の参考にしたいと思います。今回の現場見学会を通して、今までよりもより、建設関係の仕事に就きたいと思いました。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 矢野杏弥

今回の現場見学会で一番印象に残ったのは建設機械搭乗体験です。3つの建設機械の中から、アーティキュレートダンプトラックに乗り、操作を体験しました。すごく大きい重機なのにボタンで簡単に操作をしたり、軽くハンドルをひねるだけで大きく動いたりしたのでとても驚きました。また安全確認など注意をしないといけないことがたくさんあるのだと知りました。現在、環境科学科に在籍して授業や実習で勉強しているので、資格なども今のうちから取得し、頑張りたいです。将来は建設関係にも興味があるので、もし就職したら、建設機械の運転者になりたいです。



島根日日新聞 2014.10/31(金)

地元建設業で一緒に働こう

出農生、現場見学と意見交換

出雲地区建設業協会 青年部会



出雲農林高校生と現場見学会・意見交換会＝29日、出雲建設会館

出雲地区建設業協会青年部会(梅野直宏部会長、30社)が29日、県立出雲農林高校生を招いて、工事現場見学や意見交換を行った。

都市部の建設業界で高い求人倍率が続く中、地元の高校生に建設業への理解を深めてもらう、地元建設業への就職につなげようとの意図から始め、今年、建設重機の搭乗体験も盛り込んだ。

当日は、同校環境科2学年の33人が参加。2カ所の建設現場を巡り、建設重機の搭乗体験の後、出雲市塩治善行町にある出雲建設会館で意見交換した。

意見交換会では、県出雲農工整備事務所の永井克彦所長が、社会インフラの重要性や、一つの工事に夫に多くの職種がかかわっていることを解説。会員企業の若手社員が、就職に至った経緯や、会社から任されている仕事を話し、達成感や仕事観について話した。

高校生からは、若手社員に対して「仕事が好きになって辞めた」と思ったことはないのか、「入社後の昇給は？」といった質問が行われた。

梅野部会長は「若手社員からのリアルな話もあり、興味を持ってもらっただけで、都市部からの求人もあるが、継続していかないことと高校生の地元志向もある。この事業も継続することが大事だと思っている。来年はもっと工夫していきたい」と話していた。

山陰中央新報 2014.11/7(金)



シヨベルカーの操作方法を教わる出雲農林高校の生徒(左)

街角トピックス
出雲 ◆出雲農林高校生、建設現場を見学、地元の建設業界への理解を深めてもらい、人材確保につなげる。

・本事業を各紙で取り上げていただきました。

出雲地区建設業協会青年部会(梅野直宏部会長、36人)がこのほど、出雲農林高校の生徒を対象にした現場見学会を開き、業界の魅力をアピールした。

見学会は昨年に続き2回目、今回は同校環境科学科2年生の33人が参加。山陰自動車道の建設現場や出雲工業高校の改築現場を訪れたほか、市内の建設会社の敷地内で、地面や山を掘削するシヨベルカーや大型タンク車の運転席に体験乗車した。曾田龍太君(17)は「地元の会社や現場の様子がよく分かった」と喜んだ。



質問する出雲農林高校の生徒。出雲建設会館

建設興業タイムス 2014.11/5(水)

現場見学 意見交換会開く

出雲青年部会

出雲地区建設業協会(梅野直宏部会長)は10月29日、現場見学会・意見交換会を開き、出雲農林高校の生徒と部会員約50人が参加した。

若手社員が入社の動機や建設業の魅力などを発表。質疑応答では、「仕事でつらい時に支えになったこと」との質問に対し、部会員は「家族の顔を見ることで気持ちが楽になった」と話した。経営陣へは、採用面や会社の運営方針等の質問もあった。

また、多伎朝山道路や出雲工業高校の現場を見学したほか、建機に試乗した。

アンケート結果

実施日／対象者

平成25年12月11日／見学会参加生徒 28名

平成26年10月29日／見学会参加生徒 33名

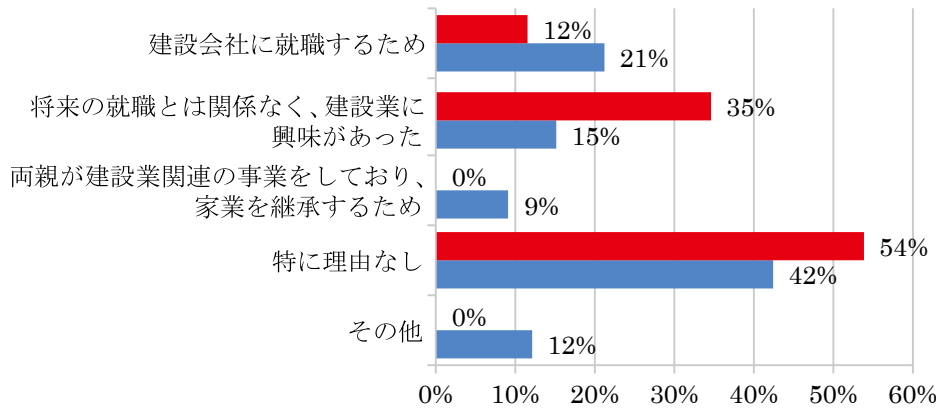
■…平成25年度

■…平成26年度

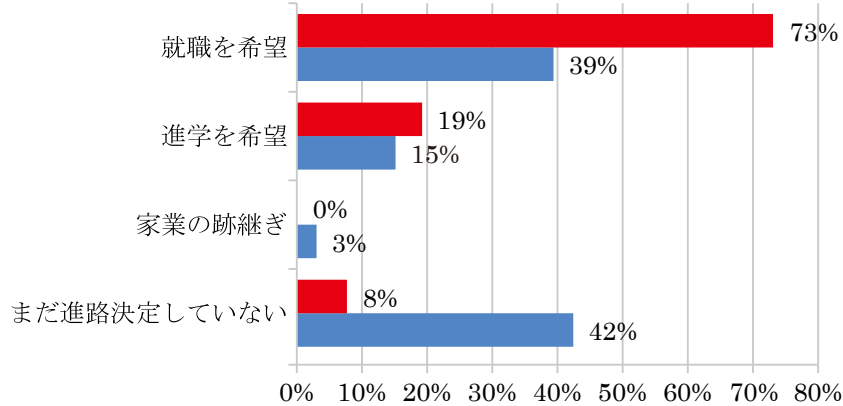
目的 地域建設業界には、様々な問題が山積していますが、その中の一つに若手就職希望者の減少があります。この問題は若手技術者だけでなく、型枠大工や重機オペレーターなど様々な職種の技能工においても同様であります。このまま建設業就労者の高齢化が進むと熟練工の卓越した技術が若手技能工に継承されなくなってしまいます。これは通常の工事現場の問題だけでなく、災害等が発生した緊急の場合にも同様であり、豪雪時の除雪オペレーター不足は地域住民の方々の生活に密接に関係してくる問題であります。

こうした現況を踏まえ、これから我々青年部会が取り組むべき、若手就職希望者の確保・促進に資する事業の参考とするため高校生にアンケートを実施させていただきました。

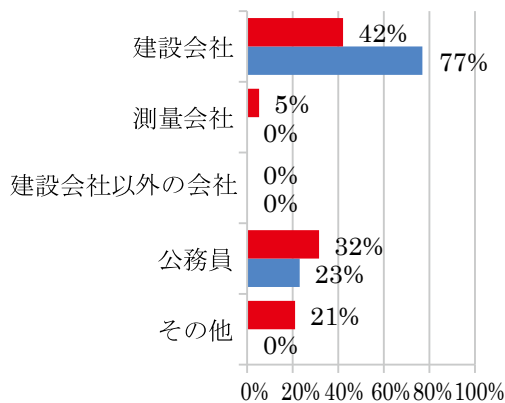
農林高校に進学した理由を教えてください



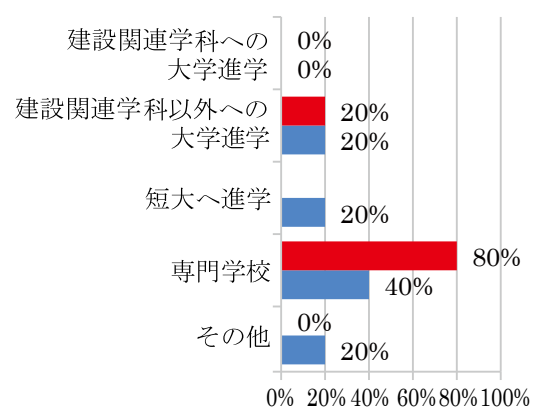
卒業後の進路について伺います



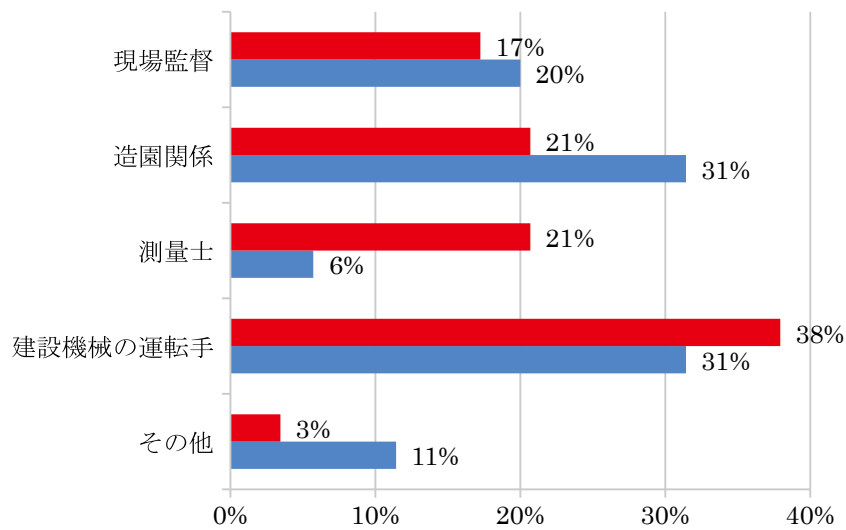
就職を希望した人



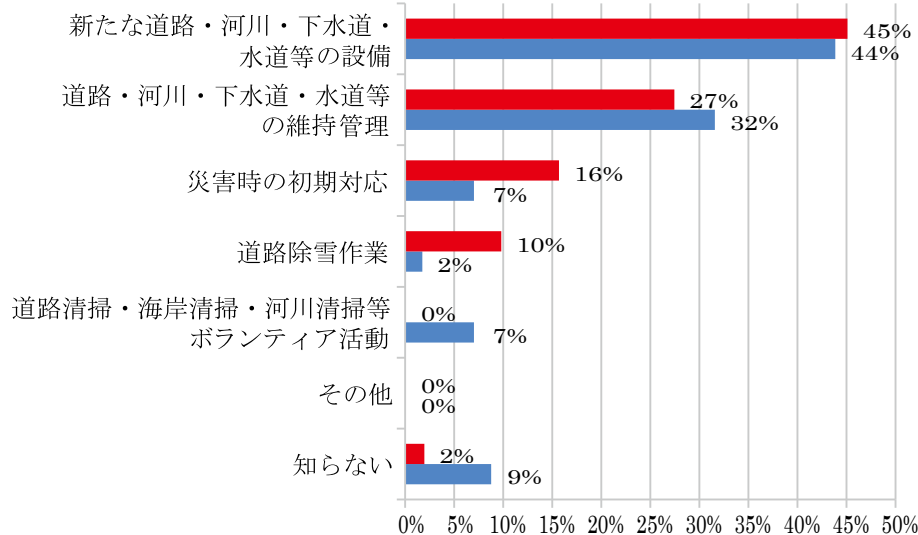
進学を希望した人



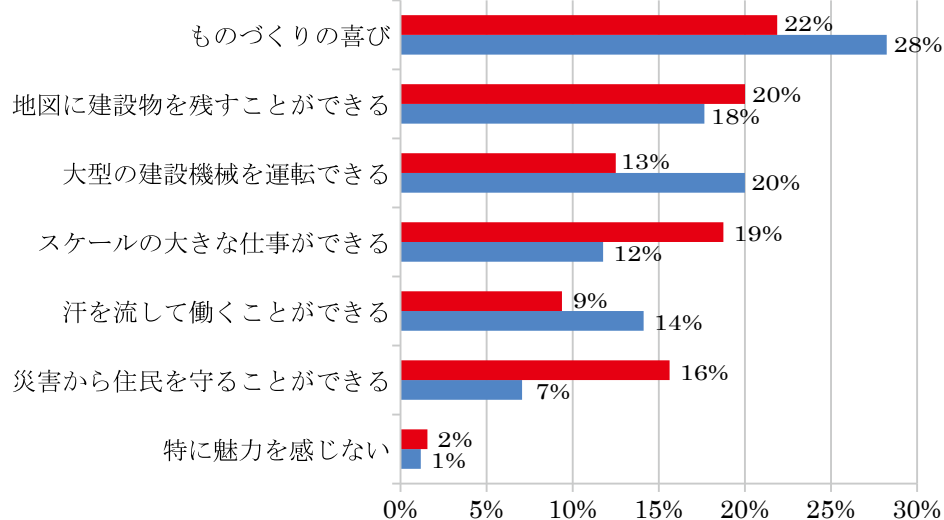
建設関連会社にもし就職したら、どんな職種に進みたいですか（複数回答）



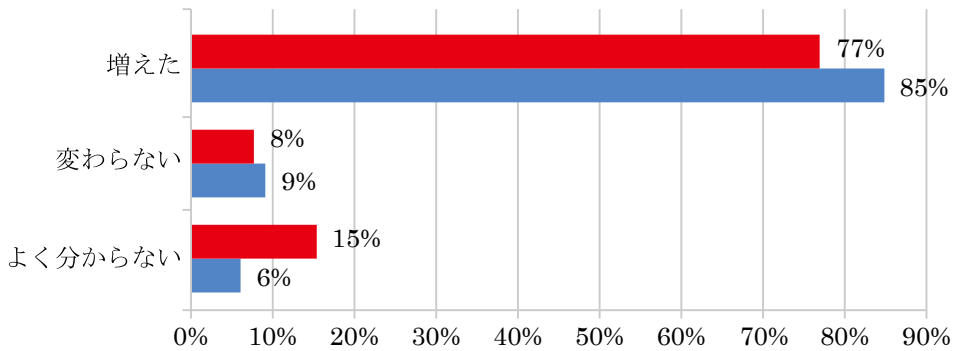
地域の建設業が果たしている役割について知っていますか（複数回答）



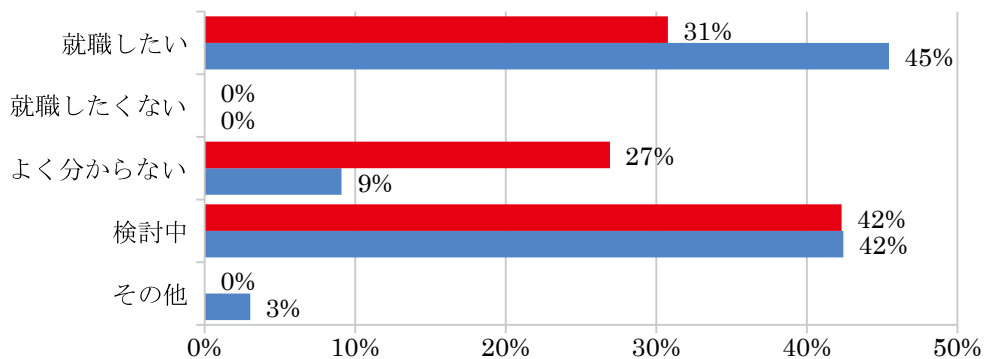
建設業の魅力について感じるものは何ですか（複数回答）



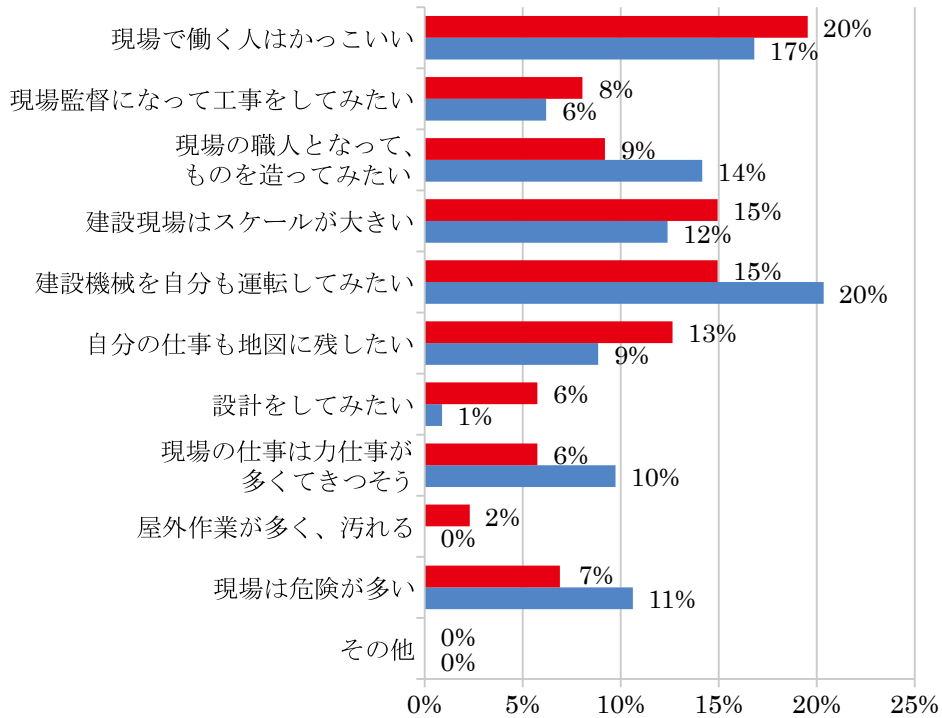
今回参加して建設業の魅力項目は増えましたか



本日の現場見学会に参加して建設業に就職したいと思いませんか

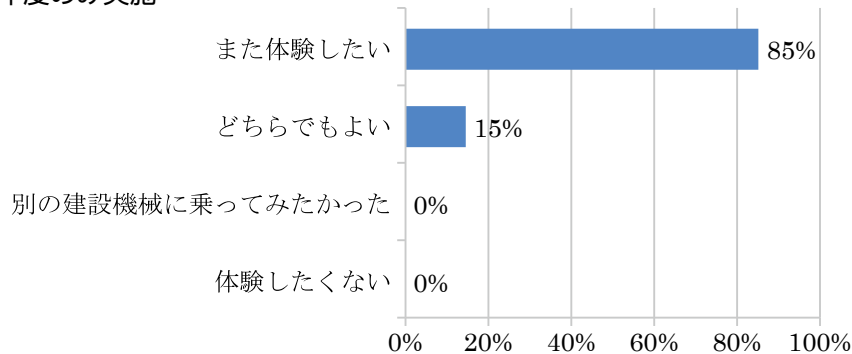


本日の現場見学で感じたことはありましたか（複数回答）



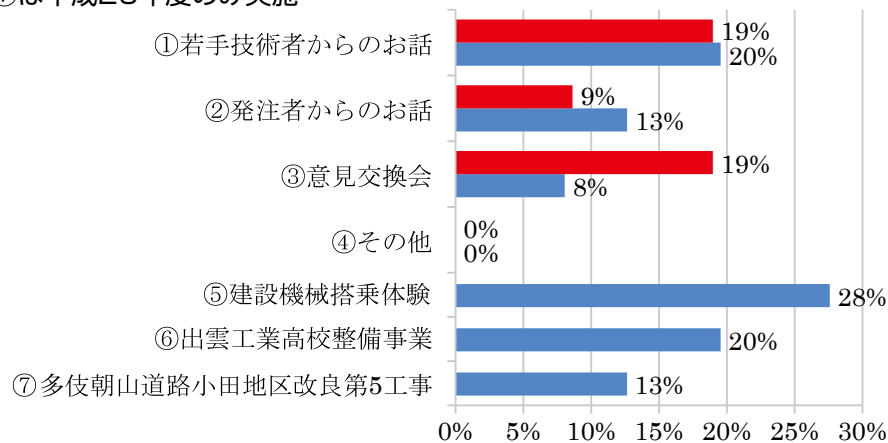
建設機械搭乗体験をしてみていかがでしたか？

*平成26年度のみ実施



今回参加して印象に残ったことは何ですか。(複数回答)

*⑤～⑦は平成26年度のみ実施



アンケート結果(まとめ)

アンケートの結果では卒業後の進路で就職希望者13名のうち、建設会社を希望された方が10名と高い割合であったことが心強く感じました。まだ進路を決定されていない方もおられたので、今回の現場見学会・意見交換会で建設業の魅力を感じていただき、少しでも多くの方に建設業に就職を希望して頂けたら幸いです。

今回の事業の中では建設機械搭乗体験が印象に残ったようです。普段の生活ではふれることのない大きな建設機械に搭乗することはとても貴重な体験だったようです。

意見交換会では積極的に質問がなされました。特に若手技術者の方には就職してから困ったこと、給料のことなどより現実的な質問をされており、真剣に就職のことを考えられている高校生の皆さんの姿が印象的でした。

地域貢献事業報告

2014 道路清掃

地域貢献委員会 委員

(有)間壁組 間 壁 和 弘



今年度は地域貢献活動の一環として平成 26 年 7 月 17 日に出雲縁結び空港周辺にてクリーンアップ作戦を実施しました。この事業には出雲県土整備事務所より永井 所長様を始め多数の職員の皆様にもご参加頂き道路清掃（草刈）に汗を流しました。

近年、出雲縁結び空港を利用してたくさんの観光客が島根県を訪れています。

部会長から「来県される方への島根流のもてなしの心で、ふるさと島根の美化に全力を尽くそう」との挨拶があり、その後、参加者全員団結して作業を行いました。3.2kmの歩道（往復）を 5 路線に分かれて清掃しました。道路には空き缶や吸い殻などのゴミは比較的少なかったですが、夏場ということもあり予想外に雑草が茂っており、草刈り機なども使い雑草を含め 2t ダンプ 4 台分のゴミを回収しました。これで来県された方に島根流のもてなしの心が表現できたのではないかと思います。

また当日は、地域の方からも「ご苦労様」「ありがとう」とお声をかけて頂きとても清々しい気持ちになりました。今後も地域の環境美化につながる活動を継続していきたいと考えています。

今回の清掃に参加された皆様お疲れ様でした。



道路清掃内容

場 所	一般県道出雲空港線・ 一般県道出雲空港穴道線	
参加者	青年部会会員	36名
	出雲県土整備事務所	21名
	オーケーリース(株)	1名
	(株)リョーキ	1名
	(株)原商	1名
	(総勢60名)	
収集車	2トンドンプ	4台
ゴミの量	1,510キログラム	



親睦事業報告

研修視察に参加して

会員交流委員会 委員

(株)板倉重機 持田 充



今年度の青年部会研修視察は、海外で数多くの重要な公共工事を手掛ける日本のスーパーゼネコンの筆頭であります鹿島建設(株)の現場視察を主な目的として、会員交流委員会の企画により10月1日から3日間台湾にて実施し、多数の会員が参加しました。

初日は、台北到着後忠烈祠へ向かい、衛兵の見事な交代式を見学しました。その後国立故宮博物院へ向かい、中国歴代皇帝の展示された至宝の数々を見学し、初日から充実した研修視察となりました。

翌日は、今回の研修視察の主目的であります、台北市内電力ケーブル埋設工事の現場視察を現地鹿島建設(株)田中課長様をはじめ従業員の方々にご協力いただき、実施しました。

初めに現場事務所にて石丸所長様および工事担当の大隈様に工事の説明をしていただきました。今回視察した現場は、第1立坑から第3立坑までの全長4.6kmの距離を、シールドマシンを使用して両側から地下50m付近を掘削し、地中で接合させるという作業内容であり、工期が約7年にもおよぶ大型工事現場です。説明後、ヘルメットと安全ベストを着用し、現在施工中の立坑内に入り現場を見学させていただきました。シールドマシンの大きさはもちろんですが、普段私たちが施工している工事とは違うスケールの大きさに参加者全員驚いていました。その後の質疑応答では、公共工事の発注形態や安全管理、雇用等への質問などがあり、台湾では土木工事と建築工事が一緒にまとめて発注されるなどの、日本との制度の違いは若干ありましたが、「新規入場者教育」・「KY活動」等の現場の安全に関しては、日本の安全管理が採用されていました。



また、現地の人々は、日本人の作業能力に比べるとやや劣る面はあるが、台湾は親日的なこともあり、指示することに対してまじめに耳を傾けてくれるので、言葉のやり取りでは多少苦勞はあるが、人間性はまったく問題ないとのことでした。

現場視察を終えて、日本で培ってきた技術を十分に生かし、台湾の近代設備建設のために力を尽くす建設技術を通じた貢献と言う面で、日本の建設業者の技術の高さを強く感じ、同業者として誇りに感じました。

最後に、台北での2泊3日というスケジュールでしたが、夕食の時間では会員の親睦も深めることができ、自分にとって大変有意義な時間を過ごさせてもらったと思います。

ご参加いただいた会員の皆様方には大変お世話になり、有難う御座いました。

経営研究事業報告

2014 意見交換会

経営研究委員会 委員
出雲グリーン工業(株) 江戸 健一郎



青年部会経営研究委員会が担当し、研修会及び意見交換会を、去る平成 26 年 12 月 19 日（金）出雲建設会館において開催致しました。

出雲県土整備事務所様より 2 名の幹部の方にお越しいただき、講演をしていただきました。

まず、技術専門監 本間正明様より『要望事項回答について』ご説明いただきました。これは、事前に青年部会会員の方々へ出雲県土整備事務所に対する質問・要望事項等を提出してもらい取りまとめたもので 21 項目もありましたが、一つ一つ丁寧にご回答下さいました。

私が普段当たり前だと思っていた事や行動も、他の方々の質問・要望を聞いて色々と考えさせられました。初めて参加させていただきましたが、1 人だけの考えではなく一度に色々な内容を聞くことができたので、大変勉強になりました。今回の回答を踏まえて今後の工事施工に生かしたいと思えます。

次に、技術専門監 小豆澤正久様より『竣工検査に係る留意事項について』の講演をいただきました。竣工検査は、工事が完了したら必ず行うものですし、検査の内容により工事成績評定点に係る重要な項目です。竣工検査における発注者の視点を教えていただき、こちらも大変勉強になりました。

研修会終了後、出雲県土整備事務所より 10 名の職員様にもご参加いただき意見交換会を行いました。出雲県土整備事務所や他地区の青年部会の方々とのお話しの中で学ばせていただいた今回の意見交換会の内容を、これから仕事に活かしていきたいと思えます。



卒業にあたり



原 嘉 昭

もう卒業かと自分の歳を思わず考えてしまいました。まだまだ若いつもりでいたのに。青年部会の皆様方に大変申し訳なく思っています。委員会の活動や全体の活動もほとんど参加出来ず皆さんにご迷惑をお掛けしました。この機会を借りてお詫び申し上げます。印象に残っている活動は、クリーンアップ作戦。あまりのゴミの量にどうなるのかと思ったこともありましたが、今となれば楽しい思い出となりました。有難うございました。またどこかでお会いする事もあると思いますが、ご指導ご鞭撻よろしくお願ひします。



岩成工業(株) 大 國 博 行

昨年の4月に入会させてもらい、僅か1年での卒業となり寂しい限りです。青年部会で感じたところは、皆様の行動力、そして企画力の素晴らしさです。また、様々な活動を通じ数多くの事を教えていただき、そして多くの皆様にお会いできたことは、私にとってかけがえのない財産となりました。様々な面で厳しい状況が続く昨今の建設業、ややもするとマイナス思考に陥りがちですが、青年部会の活動により一筋の光明を見出すことができました。青年部会の皆様の益々のご繁栄をお祈りしまして最後のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました！



— 新入会員紹介 —



出雲グリーン工業(株) 江戸健一郎

経営研究委員会で活動させていただいております出雲グリーン工業(株)の江戸健一郎と申します。弊社へ営業として入社し9年になりますが、以前は県外の建設会社で現場管理と設計業務を10年間しておりました。

入会していなければ交流がなかったであろう会員の皆様はもちろん現場見学会では出雲農林高校生、意見交換会では県土整備事務所の方々とさまざまな出会いの場を提供して下さりありがとうございます。

まだまだ会員の皆様からお教えいただく事が多いと思いますが、来年度も青年部会の活動・研修会には積極的に参加し、建設業従事者として出雲市への地域貢献並びに建設業発展の為、微力ながらお役に立ちたいと存じますので、今後ともよろしくお願い致します。



大和建设(株) 杠直門

今年度から青年部会に入会させて頂きました、大和建设(株)の杠直門です。私の建設業との繋がり、高校生時代に中々進路の決まらない私を見かねた父親からの進めで始まりました。最初は、「丁張、カケヤ」等の土木用語すら分かりませんでした。月日が経つのは早いもので建設業に従事する社会人になって15年になります。

また、青年部会に入会させて頂いたのは、斐伊川水系の研修旅行に参加させて頂いたことがきっかけです。最初は、お話ししたことの無い方達と上手くコミュニケーションが取れるのが不安でした。しかし、青年部会の先輩方は、心温かい方達ばかりで和やかな中にも青年らしい団結力の素晴らしさを実感致しました。

今後、諸先輩方の力に少しでもなれるように、青年部会の活動に精進してまいりたいと思いますので、ご指導の程をよろしくお願い致します。



ヒカワ工業(株) 菖蒲修

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会させて頂きました、ヒカワ工業(株)の菖蒲修と申します。

私は建設業に従事して20年になります。入社してから現在まで現場管理をしてまいりました。

当社の社長より本会入会の打診があり、これも人と人の輪を広げるいい機会だと思い、仲間に加えさせて頂くこととなりました。

ボランティア活動・農林高校生徒との意見交換会等、諸先輩方と共に活動し、この青年部会ならではの素晴らしい経験をさせて頂き、感謝致しております。

今後も様々な活動を通し、人々の生活を支える建設業の良さを皆様と共に多くの方々に解ってもらえるよう努力したいと思っております。まだまだ、至らぬ点もございますが、皆様方のご指導を仰ぎながら青年部会また地域の発展に貢献できるよう頑張りますので今後ともよろしくお願いいたします。

「青雲」

—— 題 字 ——
前島根県知事 澄田信義氏



『新しい力』

太平洋戦争において敗戦した日本。全土が焦土と化し甚大な損害を被りながらも、高度経済成長を成し遂げた。21世紀に入り、快適な生活環境重視の中、経済不安・環境問題等様々な弊害が生まれた。地球全体が温暖化に悩まされている現在ではあるが、オゾン層破壊の原因となるCO₂削減のため風力発電・太陽光発電などの新しいエネルギーが誕生し、今後も更に「新しい力」の研究・開発が進んでいく。我が青年部会も「新しい力」となれるよう精一杯邁進していきたい。

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

編集後記

まず初めに、青雲発行に際しご協力いただいた皆様に、感謝申し上げます。

今年度の事業を振り返ってみますと特に印象深かったのは、研修視察で訪れた台湾でした。

スケールの大きい工事現場の見学はもとより素晴らしかったですが、その後に訪れた夜市での活気あふれる人々の姿や所狭しと並ぶ屋台の多さに、子供の頃今市のアーケードで行われていた土曜夜市の活気を思い出しました。

出雲は、昨年の出雲大社の遷宮でテレビや雑誌で取り上げられ関心が高まっています。多くの人に出雲を訪れてもらい活気あふれる街にしていくためにも、青年部会で行っている清掃活動がその一助になればと思いました。

また、台湾で台北101という超高層ビルを訪れた際、5階から89階までの約382mを時速約60kmの速度で瞬時に移動する、高速エレベーターの技術と安定感に感激しました。そのエレベーターも超高層ビルも日本の技術によって造られています。日本の「安全で安心できるモノづくり」の技術は世界に誇れることを肌で感じ、この技術を次世代に継承していかねばと強く思いました。そのためにも「次世代建設就業者育成事業」を更に充実させ次年度以降も継続していくことが大事であると考えます。

我々青年部会は、様々な事業を通じ日々切磋琢磨し、今後の建設業界を魅力発信するために努力していこうと思っております。

総務広報委員会 委員長 佐藤 精一

